令和６年度第１回田川市経営評価改革推進委員会　会議録

開催日時		令和６年７月９日（火）１３時００分から１４時１５分まで
開催場所		田川市役所４階　庁議室
出席者	委　員	岡本雅享氏（副委員長・委員長代理）、和田徹氏、佐藤元治氏、花石恵子氏 （出席者４名）　※欠席：神谷英二氏（委員長）、米丸知之氏
	田川市 （事務局）	経営企画課 有田課長、峯課長補佐、山本企画政策係長、﨑山企画政策係主事

１　開会

２　副委員長挨拶

３　議事（議事進行：岡本副委員長）

⑴　田川市第７次行政改革大綱第１期実施計画の令和５年度実績と令和６年度計画について

事務局	（事務局が資料１、資料２を説明）
委　員	№3 の計画は庁内文書のペーパーレス化を推進しているが、市民向けの文書のペーパーレス化はしないのか。事務の軽減にもつながると思う。
事務局	庁外文書のペーパーレス化についても今後検討していかなければならない。
委　員	未達成は、設定した成果指標の内容にもよる。結果が出なければ別のアプローチをするという理解で良いか。
事務局	施策自体を見直す場合と、成果指標自体を見直す場合がある。例えば公有財産の売却など、購入してくれる人がいなければ件数は増えない。目標自体が達成できるか、不明確なところがある。
委　員	№10 に関しては、相手方がいるのではなく職員で完結する問題。遅れているのはなぜか。また、先進地の視察をしているが、OJT の指針に取り入れているのか。
事務局	とくに支障があって進んでいないわけではなく、策定自体に時間がかかっているとのことである。先進地の視察に関しては、指針に取り入れるかどうかは確認していない。
委　員	№11 に関しては、新たな部署が課ではなく小さい部署となったため、取組が遅れたのか？
事務局	もともとは８月に DX 推進に特化した組織ができる予定で動いていたが、本年４月の機構改革で経営企画課内に DX 推進室が新しく整備したため、計画の時期がずれたもの。

委員長代理	OJT の指針策定には、専門家を入れて検討しているのか。
事務局	庁内で検討し策定している。
委　員	ＤＸ推進室にはデジタルに強い人材を採用しているのか。
事務局	外部人材は採用していないが、もともと市役所の情報推進部署にいたことがある職員等を配置している。
委　員	県でもデジタル分野に優れた人材を採用している。数年経験を積んだ後は、一般の行政職員として係長等になっていくので、デジタルに特化した人材を育てていくのは難しい面もある。
委　員	OJT は企業でもとても重要視されている。長期的な視点で考え、もっと上の組織で考えていかないといけないと思う。 ふるさと納税は、成果目標を達成していないということだが、２～３年前に比べるとかなり伸びている。財政的な効果が大きいので、ふるさと納税には力を入れて頑張ってほしい。
事務局	令和６年６月から、返礼品のおせちを出品している会社が、白鳥工業団地に工場を建てて稼働している。今年度から寄附もかなり伸びるのではないかと思っている。
委　員	個人版のふるさと納税は、ある程度普及しており、頭打ちになってきているため、企業版ふるさと納税に力を入れる自治体が増えてきている。今後田川市でも努力が必要であると考える。

⑵　その他

ア　令和５年度行政評価の取組について

事務局	令和４年度まではコスト削減に主眼を置いた行政評価を行ったが、今後は行政評価の担当部署が企画政策部門になったこともあり、総合計画に掲げた施策の実現に主眼を置いて取り組んでいきたいと考えている。 現在、取組内容を整理しているが、例えば、前年度実績で事業成果をあげることができなかった事業の担当部署にヒアリングを行い、要因は何なのか、今後の事業の方向性はどうすべきかといった評価・検討を行うイメージである。なお、今年度に実施する行政評価の結果は、翌年度（令和７年度）に報告する予定。
委員	県では夏頃に事業仕分けを行い、浮いた事業費については、企画部門が行う重点事業に充てるという方式をとっている。

イ　その他

事務局	「第２期田川市未来創生総合戦略」及び「田川市過疎地域持続的発展計画」の令和５年度実績に基づく評価・検証は、現在とりまとめを行っており、後日、書面開催で報告させていただく予定。次回の会議は、年明け頃を予定。

４　閉会